

令和8年度 調布市立若葉小学校 学校経営計画（学校長 樋川 宣登志）

学校の教育目標	
◎かしこく（しっかり考え、すすんで学ぶ子） ○やさしく（思いやりのある子） ○たくましく（明るくたくましい子）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「子どもたち一人ひとりを大切にする学校」	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>学校の主役は子どもたちであり、一人ひとりの子どもが大切にされ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体がはぐくまれてゆかなければならない。子どもたちが、自分は大切にされ、尊重されていると感じ、安心して生活して学ぶことができる学校を目指す。</p> <p>◇授業規律は保たれ、基礎学力の定着も望ましい状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆主体的に学習に取り組んだり追求したりする態度や、表現力が十分でない。 <p>◇おだやかで協力的な子どもが多く、各学年・学級は落ち着いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆耐性が十分でなく、逆境に弱い。自分の気持ちを伝えることに消極的である。 ◆不登校児童や登校しぶり、学校生活への適応に困り感を抱いている児童が少なくない。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 自律した行動をとれる判断力、たくましくしなやかな心を醸成する。 2 主体的に学ぶ気持ち、生涯学び続けようとする態度を育てる。「教師が教える授業」から「子どもが学ぶ授業」への転換を図る。 3 運動への親しみと健康への関心を高める環境を整える。 4 安全・安心な学校生活を確立する。 5 子どもたち一人一人の個性を尊重し、伸ばしていく。 6 コミュニティスクール制度を活用し、保護者・地域の教育力を活用して学校の教育活動、児童の安全確保を充実させる。 	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①読書、文化文芸的活動を充実し、児童の豊かな心をはぐくむ。(読書旬間-文化的活動、通年)	①管理職による授業観察(100回)、校内研修会を通して、授業スタイルやUDを共有し、学習効果を高める。	①体育授業の充実、「わかちよこ」推進、出前授業などにより、運動の習慣化や意識向上を図る。
②交流活動・体験的活動を通し、互いを尊重する心、自尊感情を育てる。(縦割り班活動等、通年)	②校内研究「主体的に学ぶ児童の育成」を図る授業を構築する。(研究授業3回以上)	②養護教諭による保健指導、ゲストティーチャーによる保健授業などを通して、健康への関心を高める。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①アンケートで、読書や文化文芸的活動に関する肯定的評価 80%以上。	①アンケートで、習熟度別などによる指導法の学習効果に関する肯定的評価 80%以上	①②アンケートで、健康・体力に関する肯定的評価 70%以上。
②アンケートで、交流・体験活動に関する肯定的評価 80%以上。	②アンケートで、学習での達成感に関する肯定的評価 80%以上。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 安全・安心な学校生活の確立	5 個性の尊重と伸長	6 保護者・地域の教育力の活用
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①複数の教員が目で見守る様子や関係を見守る。(学年指導体制・教科担任制。いじめ防止・不登校対策委員会による組織的対応。通年)	①特別支援教室専門員・SSによる授業補助や個別指導等により、個に応じた支援を行う。(通年)	①CS 運協を中心として関係諸団体と連携し、その教育力や安全に係る協力を集め、教育活動の充実を図る。
②活動や施設の不断の点検、アレルギー対応のルール徹底等、学校事故を未然に防止する。(通年)	②校内委員会、SC・SSWの活用により、不登校等、必要な児童への支援を充実させる。(通年)	②PTA行事や地域行事について、保護者・地域と連携して活性化を図る。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①発見したいじめ案件の解決 100%。	①②アンケートで、一人一人のニーズに合った相談・対応に関する肯定的評価 80%以上。	①地域連携等についてのCS 運協における肯定的評価。重大な交通事故、犯罪被害0件。
②アレルギー事故0件		②アンケートで、CS・地域学校協働本部・PTAとの連携・協力に関する肯定的評価 80%以上。

人材育成・組織運営
<p>◇管理職による授業観察・指導、教科担任制などにより、教員の授業力向上を図る。</p> <p>◇研究主任、OJT担当をリーダーに校内研究・研修を開催し、教員の資質向上を図る。</p> <p>◇主幹・主任教諭を各分掌のキャップに配置し、自主的・計画的に職務を進めさせる。管理職が各リーダーとの打合せを通して、ミドルリーダーを育成する。</p> <p>◇業務の効率化、職員のライフワークバランス改善を目指し、会議・業務等の整理削減、ICT活用を進める。SSSや副校長補佐を計画的に活用する。教職員の働き方に関わる情報を適宜提供するとともに、個別の状況に細やかに対応していく。</p>